

Ⅲ 家庭教育

家庭と地域を結びつける取り組み ～夢ちづか・通学合宿を通して～

豊前市千束公民館 館長 渡邊 要

- ① 事業名 「地域とのふれあい活動の推進」
- ② 事業の目的
子どもと地域の大人のふれあい活動を通してコミュニケーションを深め、子どもの健全育成に寄与することを目的とする。
- ③ 事業の実施主体
青少年育成市民会議千束支部
- ④ 連携・協力機関・団体
町内各種団体、町内小・中学校及びそのPTA
- ⑤ 事業予算
青少年育成市民会議千束支部の事業予算及び参加団体よりの補助金による。
但し、通学合宿については参加費及び補助金を充てる。
- ⑥ 実施に至る経緯
科学の進歩にともない、携帯電話やインターネットなどの電子機器を通して新しい知識と情報が私たちの生活の中に入り込んで来ています。そして人々の生活もずいぶん変わってきており、近所づきあいや地域との交流も減少の傾向が見られ、孤立化や自己中心的な考えに奔る人も多くなっています。このような状況の中、世代を超えて地域の人たちのふれあう場が必要となり、青少年育成活動を中心に「地域とふれあう活動」を進め、交流を深めることを目的とします。
- ⑦ プログラム作成の視点
子ども達が主体的に活動できるようにするため、楽しさと新しい体験の場を用意し、大人がその活動を補助しながら共に楽しい活動となるようにする。
- ⑧ 事業の内容
夢ちづか子ども公民館
青少年育成市民会議千束支部で取り組んでいる活動で、長生クラブや子ども会、母子寡婦福祉会、民生委員・児童委員協議会などの団体が子どもの「遊び」や「もの作り」の場を提供し、子どもの居場所作りと共に子どもと大人のふれあいの場として活動を続けています。活動内容については担当する団体にお任せしていますが、5月の企画運営委員の会議で年間計画を立てて実施します。
7月には長生クラブが担当して「川遊び」を実施しました。実施場所は千束公民館

から6 kmほど離れた合河地区にある岩岳川及び河川プールです。子ども達は市バスの臨時便で、大人はマイカーで会場へ行きました。

点呼・諸注意の後川へ入り小魚を追ったり水中の生き物を探したり、それぞれの活動をしました。一緒に来ていた保護者も川に入り、子どもと一緒に楽しんでいました。

しばらく遊んだ後、河川プールを網で仕切ってヤマメを放流し、手づかみでの捕獲に挑戦させました。逃げ足の速いヤマメに子ども達は振り回されていましたが、やがてあちらこちらで「捕まえた」という歓声が上がってきました。多くの子ども達に追い回されて逃げ場を失ったヤマメたちが、次々ととらえられました。プールサイドで見守っていた保護者や長生クラブのメンバー達も子ども達の様子に興味が高まり、プールの周りは大賑わいとなりました。

捕まえたヤマメは調理係のメンバーによって早速塩焼きにされ、簡単な昼食のおかずとなりました。昼食を取りながら、子どもと長生クラブのメンバーや保護者との楽しそうな会話が続けていました。

夢ちづか子ども公民館 活動予定

期 日	内 容	担 当
6/26(土)	レクリエーション	民児協
7/24(土)	自然体験(川遊び)	長生クラブ
8/1(日)	ソーメン流し	子ども会
9/25(土)	むかし遊び	長生クラブ
10/30(土)	もの作り	母子会
11/27(土)	紙バッグ作り	民児協
1/29(土)	布ぞうり作り	企画委員
2/6(日)	陶芸教室	子ども会
3/5(土)	料理教室	母子会



川の中で小魚や虫を探す



河川プールでヤマメを追う



ヤマメをおかずにおかず

《参加者の声》

- とても楽しかった。また来年もきます。
- 8匹捕まえたよ。とても楽しかった。ヤマメの塩焼きはおいしかった。
- 子どもがけがをしないか心配だった。楽しそうに遊んでいたのが嬉しかった。

通学合宿

千束小学校ふれあい通学合宿は、小学校PTAと子ども会連合会、教育委員会が連携して取り組みました。宿泊場所を学校から近い千束公民館に変えて2年目になります。通学合宿では子ども達はグループで仕事を分担し、お互いが規則を守りながら共同生活をします。家庭にいるときのような身勝手なことはできません。しかしいつも周りには友だちがいるという今までにない環境の中での生活が始まりました。

食事作りも当番制で、交代で作りました。朝食づくりの指導には長生クラブの会員がボランティアとして参加しました。子ども達は料理の手順や切り方を教わりながら調理をしていましたが、中には包丁の使い方



が上手で指導にきていた大人が感心することもあったと話していました。

今年の通学合宿で新しく取り組んだのは、公民館近くの家庭や老人施設で“もらい風呂”を試みたことです。公民館には入浴施設がないので天狗の湯やト仙の郷といった温泉施設まで行かなければなりませんでしたが、公民館近くの6家庭1施設が協力を申し出てくれました。

もらい風呂の実施時あたって、温泉施設を使ったときの失敗や迷惑行為などをもとに入浴のエチケットや心構えを指導しました。最初は緊張もあったようでしたが、近所の人たちとの会話や新しい体験ができて、この入浴を楽しんでいたようでもありました。

もらい風呂に協力した人たちの話では、

- 挨拶もきちんとできて、子ども達がとてもかわいかった。
- 子ども達と話ができて嬉しかった。
- 行儀が良く、そんなに汚すこともなく、迷惑になることは殆どなかった。

等、実行委員の心配とは裏腹に、とても好評のようでした。

この通学合宿では、日頃あまり自分たちですることがない炊事や洗濯、掃除などの家事一切を自分たちでする生活、“もらい風呂”という新しい体験などをしました。その中で家庭の仕事の大変さや大切さを感じたり他人への思いやりを感じたり、子ども達にとっての収穫は大きかったようです。実行委員や支援者、参加した子ども達に直後に書いていただいた一言感想では、貴重な体験ができて良かったという反省が多く見られました。

「川遊び」と「通学合宿」という二つの活動の紹介をしましたが、その後保護者から「子どもの生活の様子が変わった」という話はあまり聞かれません。しかし、良く注意してみると小さい所に変化を感じることもあるそうです。

⑨ 事業の成果

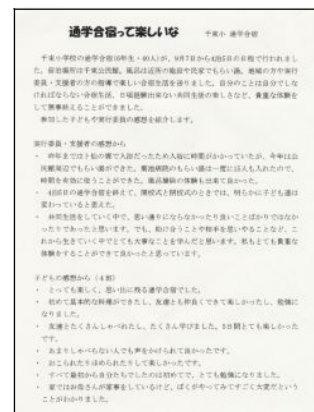
子どもの健全育成を願うためには家庭内でのしつけや役割分担などを通して基本的な生活様式を身につけたり家庭内でのコミュニケーションを高めたりすることは大切です。更に地域とふれあう活動を通して多くの体験をし、学ぶことが多いと思います。

地域とふれあう活動を通して、家庭内では味わえない経験をしてきました。地域の人たちとのコミュニケーションの広がりや助け合うこと、相手を思いやることなど、これから生きていく中で大事なことを学ぶ貴重な体験ができました。

⑩ 今後の課題

子ども達の新しい体験の場づくりと共に、今までの経験が生かせる活動の場づくりを工夫していかなければなりません。

継続的な活動ではマンネリ化が心配され、活動内容の工夫が必要になっています。



828-0053 豊前市大字千束167 豊前市千束公民館
TEL 0979-82-2250 FAX 0979-82-2250
メールアドレス